令和６年度　学校評価シート

東海市立三ツ池小学校
住　　所　　東海市加木屋町鎌吉良根９
電話番号　　０５６２－３４－６３１３　　児童３２２
校 長 名　　中　山　律　子　　クラス１６学級（内　特支４）

○教育目標　　学ぶ（知）　行う（徳）　鍛える（体）
○地域の特色　　三ツ池コミュニティやコミュニティ・スクール、ＰＴＡや地域の福祉施設などによる学校教育への支援がとても充実している。

中期目標	今年度の目標	評価方法（アンケート項目）	結果の分析	課題と改善策	学校運営協議会評価 【実施日】令和７年２月７日	次年度の改善策 （誰が何をどうする）
知	○　児童にとって成長を実感することができ、ともに学び合うことのできる学校づくりを推進する。 ・　「わかる授業」「楽しい授業」の実践 ・　「伝える」「聞く」「つながる」活動を取り入れた学び合う授業づくり ・　授業規律の指導の充実とＩＣＴ機器の有効活用 ・　異年齢交流活動（児童会活動、ペア学年活動、各種行事等）の充実	○　授業に関する児童・保護者・教職員アンケートの以下の項目について、昨年度と本年度の肯定的な回答の結果を比較する。 【児　童９～13】 「楽しさ」「内容の理解」「教員の熱心な指導」「発表」「意見の聞き取り」 【保護者11】 「分かりやすい授業の実施」 【教職員10】 「児童を主体とした『わかる授業』『楽しい授業』の実践」 ○　令和６年度末に実施した「数研式教育・心理検査（ＣＲＴ）」の結果を分析する。	○　授業に関する児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答結果は以下のとおりである。 昨年度　本年度　　昨年度　本年度 【児　童９】　78%　65%　【保護者11】　88%　88% 【児　童10】　85%　84%　【教職員10】　95%　100% 【児　童11】　88%　88% 【児　童12】　61%　65% 【児　童13】　92%　91% 児童の回答結果は、授業の「楽しさ」に関する項目が大きく減少しているため、授業に対して児童の関心・意欲があまり高まっていないと考えられる。一方、保護者や教職員の回答結果は高い水準を維持しており、教職員が本校の現職教育の方向性を理解して取り組んだり、保護者が授業参観等を通して、本校の教育活動に安心できたりした結果であると考える。 ○　「数研式教育・心理検査（ＣＲＴ）」の結果は、国語・算数共に、すべての学年において、得点率が全国比を超える結果であり、学力は着実に定着していると考える。	○　児童が「楽しい」と感じるためには、関心・意欲を高めていく必要がある。そのため、授業における導入場面の工夫やＩＣＴ機器の活用、児童が主体的に活躍する場面が増えるような取組を行う必要がある。児童の関心・意欲を高めるための手だてを考えていきたい。 ○　保護者の授業に対する回答結果も高い水準を維持できているため、次年度も本年度と同様に各学期１回の授業参観を実施したり、学校だよりやブログ等で現職の取組について継続して伝えたりしていくことが必要だと考える。	○　基本的には子どもたちは勉強が好きな子ばかりではないので、素直な気持ちで回答していると考えられる。昨年度の数値が高いと思うため、そこまで気にする必要はないと考える。 ○　現在は、英語の学習や情報の学習などが、以前と比較して前倒しになっている。そのように学習をしている現代の子どもたちは大変であると感じる。	○　現職教育主任を中心に「伝える」「聞く」「つながる」の活動を取り入れた授業実践に、全職員で取り組み、子どもたちが主体的に取り組むことで､関心･意欲を高められるようにしていく。 ○　今年度から現職教育のテーマを変更したため、アンケート項目の変更を行った。次年度の学校評価アンケートでは、今年度の結果と比較し､分析していく。 ○　今後も分かりやすい授業を実施していると保護者に理解されるように、学校として年間計画に授業参観を各学期１回程度設定する。
徳	○　あいさつ・返事など礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接する態度を育てる。 ○　スリッパの整頓など、よく考えて行動し、進んでみんなのために働こうとする態度を育てる。 ○　いじめはどの児童にも起こりうるものであり、誰もが被害者にも加害者にもなりうるという認識のもと、いじめは絶対に許さない、見過ごさないという姿勢で指導にあたる。	○　児童・保護者・教職員アンケートの以下の項目について、昨年度と本年度の肯定的な回答の結果を比較する。 ・　あいさつ・返事に関する項目 【児　童２・３】 「あいさつ」「呼名時の返事」 【保護者５】「家庭内でのあいさつや返事」 【教職員14】 「あいさつや返事に対する具体的な方策」 ・　スリッパの整頓等に関する項目 【児　童４】 「自分のくつや自分が使ったトイレのスリッパ」 【保護者８】「はきものをそろえる習慣」 【教職員15】 「はきものそろえの具体的な方策」 ・　いじめ防止に関する項目 【児　童20～22】 「他の人への悪口」「友達や下級生に対する言動」「いじめ発見時の言動」 【保護者18】「いじめのない学校づくり」	○　「あいさつ・返事」「スリッパの整頓等」「いじめ防止」に関する児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答結果は以下のとおりである。 ・　あいさつ・返事に関する項目 昨年度　本年度　　昨年度　本年度 【児　童２】　81%　67%　【保護者５】　80%　80% 【児　童３】　75%　67%　【教職員14】　95%　95% ・　スリッパの整頓等に関する項目 昨年度　本年度　　昨年度　本年度 【児　童４】　90%　88%　【保護者８】　45%　42% 【教職員15】　90%　90% ・　いじめ防止に関する項目 昨年度　本年度　　昨年度　本年度 【児　童20】　80%　73%　【児　童22】　75%　75% 【児　童21】　93%　93%　【保護者18】　82%　80% 児童の回答結果は、「あいさつ・返事」「他の人への悪口」に関する項目が減少している。特に、「あいさつ」については10ポイント以上大きく下がっている。また、いじめ防止の「他の人への悪口」に関する項目については、数値が減少し、否定的な回答をしている児童が高学年全体の３割弱を占めているということに学校として危機感を感じている。	○　「あいさつ・返事」「スリッパの整頓等」に関する項目について、児童用の回答結果は減少しているが、総務委員会による「各国のあいさつ運動」や生活委員会による「トイレのスリッパ整頓チェック」など、主体的に委員会活動を展開できているので、次年度も継続していくことが必要だと考えている。また、「スリッパの整頓等」については、保護者の回答結果は昨年度同様、低い水準であるため、学校での指導を家庭でも同様にお願いできるよう、本校のブログ等で発信できるようにしたい。 ○　「いじめ防止」の「他の人への悪口」に関する項目については、高学年の３割弱にあたる児童が否定的に捉えていることは大きな課題である。次年度の道徳教育に関する重点目標を「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「友情、信頼」に設定し、教科だけでなく教育活動全体で児童を指導していく必要がある。	○　登校中の子どもたちは、あいさつをするとあいさつを返してくれる。子どもたちは、大人たちからあいさつをしてくれるのを待っているのではないか。大人からあいさつしていくことが大切だと考える。 ○　民生委員として、年２回あいさつ運動をしているが、その時は、あいさつがたくさん返ってくる。中にはしない子もいるが、大人でもそういうことはある。下がったのは、子どもの大人に対する反応で、大人がしていないからではないかと考える。 ○　「いいことを見つける」ということを、大人から話をしていくことが大切である。いろいろな考え方があるので、認め合って互いに成長していくことが必要である。また、大人も子どもと一緒に考えて、話し合う機会をつくることが大切だと考える。	○　あいさつ・返事については、今年度の特別活動指導部と学習指導部の取組を各指導部で見直し、時期や方法等を改善する。 ○　家庭でもはきものの整頓が習慣化するよう生活委員会担当者がブログで学校の様子を紹介したり、教頭が学校だよりで家庭での児童に対する声かけを依頼したりする。 ○　道徳教育に関する重点目標を「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「友情、信頼」に設定し、教科だけでなく教育活動全体で心の教育を展開していく。 ○　友達や下級生に対し、親切に接している児童は多いため、そのような児童の言動を適切に称賛し、互いに認め合えるような人間関係を構築できるようにしていく。
体	○　日常および行事前後の健康観察を徹底し、事故の防止・感染症・不登校傾向など心身の問題の早期発見と予防に努める。 ○　児童の発達段階に合った運動の実践を通して、基礎的な身体能力を身に付け、運動の楽しさや喜びを味わわせられるようにする。	○　保健室のけがの記録、長欠児童記録等から児童の心身の状況について、昨年度の来室記録と比較して評価する。 ○　本年度の体力テストで体力賞Ａを獲得した５・６年児童の結果と昨年度を比較することで、児童の体力がどのような状況にあるか分析をする。	○　内科的・外科的な保健室来室児童の昨年度と本年度の状況は以下のとおりである。 昨年度　本年度　　昨年度　本年度 【内　　科】 258人　273人　【外　　科】 739人　782人　※12月末時点の数値 本年度については、昨年度と比較すると内科・外科共に保健室来室が増加している。外科については、外遊びでのけがが多く、外遊びを楽しむ児童が多いことが影響していると考えられる。内科は微増ではあるが、登校渋りの児童も増加傾向にあるため、気持ちの面によるものかどうか今後も注視する必要がある。 ○　体力テストについては、５・６年生とも、学年の約２割が体力賞Ａを獲得するなど基礎的な身体能力が身に付いている児童が多い。特に、６年生は昨年度に比べ、体力賞Ａを獲得する児童が増加し、全体を通してよい結果であったと考える。 昨年度　本年度　　昨年度　本年度 【５　　年】 14人　10人　【６　　年】 ８人　12人	○　元気に外遊びができる状況はよいことと捉えているが、けがの増加は遊び方の問題とも言える。折に触れて学級活動の時間に、遊び方について児童と確認することで、未然防止につながると考える。また、様々な機会に教職員で情報交換を実施し、学校生活に不安を感じている児童の早期発見に努めていきたい。 ○　体力テストの結果からは課題は見当たらないが、なわとび運動の達成者など、次年度は別視点で児童の身体能力の状況を把握する必要もあると考える。	○　授業後に三ツ池公園や小学校で遊んでいる姿がよく見られる。以前は鎌吉良根地区に公園があったが、今はなくなっている。こどもを取り巻く環境が変化してきている状況があると考える。 ○　子ども教室や児童館でも体を動かす講座等を行っているため活用してほしい。	○　体力テストの結果は十分に満足できる内容ではあるが、すべての児童の体力向上を把握するため、体力テストの結果の平均や、なわとび運動の結果を比較するなど、検証していく。 ○　養護教諭・保健主事を中心として、学校全体で冬場の感染症予防の取組を継続していく。
地域連携	○保護者や地域の方に、より信頼される学校づくりを推進する。 ・　保護者や地域の方の声への迅速かつ誠意ある対応 ・　学校ホームページやブログ等の積極的かつ定期的な配信 ・　学校評価等による諸課題の明確化と具体的対策の検討及び実施 ・　コミュニティ・スクールの推進	○　保護者・地域住民・教職員アンケートの以下の項目について、昨年度と本年度の肯定的な回答の結果を比較する。 ・　学校の印象に関する項目 【保護者・地域住民１】「よい学校」 【教職員１】「誇れる学校」 ・　学校の情報発信に関する項目 【保護者２・３】 「知りたい情報」「ブログ・通信の閲覧」 【地域住民３・４】 「学校の様子」「ブログ・通信の閲覧」 【教職員22】 「ブログ・通信による情報の積極的公開」	○　学校の「印象」「情報発信」に関する保護者・地域住民・教職員アンケートの肯定的な回答結果は以下のとおりである。 ・　学校の印象に関する項目 昨年度　本年度　　昨年度　本年度 【保　護　者１】　97%　95%　【教　職　員１】　100%　100% 【地域住民１】　100%　97% ・　学校の情報発信に関する項目 昨年度　本年度　　昨年度　本年度 【保　護　者２】　93%　90%　【地域住民３】　95%　92% 【保　護　者３】　80%　78%　【地域住民４】　70%　46% 【教　職　員22】 100%　100% 地域住民の解答結果の「ブログ・通信の閲覧」に関する項目が大きく減少している。一方で、保護者については、大きくは変わっていない。地域に向けて積極的な情報発信が必要であると考える。	○　次年度も引き続き、以下の内容に取り組む。 ・　地域の行事に参加した際もブログ等でその様子を発信し、行事の場でも地域住民に伝えることで、ブログ等に対する地域住民の意識向上につなげるようにする。 ・　コミュニティの会議の場で、ブログ等の閲覧方法を教頭が地域住民に説明をする。 ・　環境整備ボランティアの活動について積極的に発信し、地域住民が学校に来校できる機会を増やす。	○　「できる人ができる時に」としてＰＴＡの活動を行っている。ボランティア活動については、情報発信が足りなかったと感じている。学校行事とあわせたり、何らかの楽しみもあったりすると、ボランティアに参加しやすいと考える。	○　次年度もコミュニティ・スクールの活動を中心に、各ボランティア活動を募集し、地域を巻き込んだ学校づくりを推進していく。 ○　１日１ブログを上げることを継続し、学校の様子を発信していく。また、教頭がコミュニティの会議の場でブログ閲覧方法を説明したりして、地域住民のブログ閲覧に対する意識向上につなげていく。